

NPO法人自然と緑

特定非営利活動法人 自然と緑

代表者 伊藤 孝美

〒540-0006 大阪市中央区法円坂 1-1-18

大阪市教育会館 5 階

TEL : 06-6809-1700 FAX : 06-6809-2702

E-mail : info-sm@shizen-midori.org

URL : <https://shizen-midori.org>

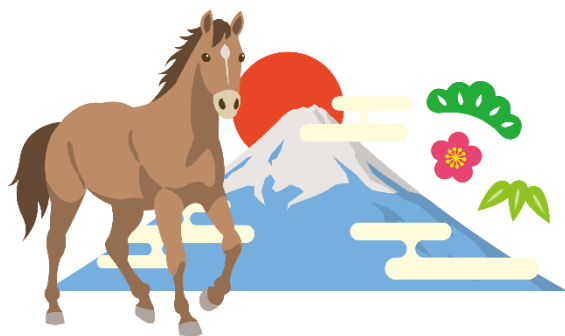
NPO 法人自然と緑会報 2026 年 1 月 1 日発行第 146 号



【年頭の御挨拶】

新年明けましておめでとうございます

自然と緑理事長 伊藤孝美



2026 年の新春を迎え、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

さて、近年地球環境問題、中でも地球温暖化による気候変動が私たちの生存環境を脅かしています。一昨年、昨年の初夏から秋にかけて史上最高値の異常高温と異常乾燥（寡雨）が続き、一部地域では線状降水帯など集中豪雨により、野菜類の作柄が思わしくなく異常高値が続き、日本国内ばかりでなく、世界的規模でも気候変動の影響が高まっています。

2023 年 7 月 27 日、世界気象機関（WMO）と、欧州連合（EU）の気象情報機関「コペルニクス気候変動サービス（C3S）」は、2023 年 7 月は「観測史上最も暑い月」となるという見通しを発表し、国連のグテーレス事務総長は同日の記者会見で「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代（the era of global boiling）が来た」と述べ、各国政府などに気候変動対策の加速を求めています。

少し古いのですが、IPCC が 2018 年に発表した「1.5 度特別報告書」によると、世界の気温上昇を 1.5 度に抑えるには、温室効果ガス排出量を 2030 年までに 2010 年比で 45%削減し、2050 年前後に実質ゼロにする必要があると言い、また、2021 年 8 月に国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」は、地球が人間の影響で温暖化していることに「疑う余地がない」と初めて断言しました。

このように、すべての国（米国トランプ大統領は詐欺だと脱退）が参加する温暖化対策の国際ルールは動き出してはいるものの、気候危機を食い止められるかは不透明な状況ではありますが、私たちは私たちに出来る範囲でも地球温暖化防止の活動（過ごし方）をしていかなければなりません。

私たち NPO 法人自然と緑においては、自然大学での自然環境・生態系の学習、馬ヶ瀬山国有林の森林整備活動、斑鳩町里山整備、各企業の森の整備、自然観察会、河川探訪観察会、地学的むかし散歩等々を実践し、自然環境の保全をし、温暖化防止活動の一端を担ってきました。これらの活動も素晴らしい自然環境を孫子の代まで残してゆく糧になるものです。

これまでと同様の活動を力と気力の及ぶ限り続けていくことが必要とされています。

会員の皆様、会員として継続をお願いいたします（会費が自然と緑の活動の継続に繋がります）。

本年こそ会員の皆様が気軽に楽しく自然と緑の活動に御参加頂けることを願って、年頭の挨拶とします。

—146号目次—

p 1	年頭の御挨拶	自然と緑理事長 伊藤孝美
p 2~3	年男・年女の今年にかける思い	上村邦雄・小島 マサ子・関澤友規子
p 3	自然と緑正会員の皆さまへお知らせ・賛助会員の特典 「寄付等の御礼」	自然と緑事務局
p 4~5	渡辺弘之の未解決事件簿（28）渡辺家では節分の豆まきを しない？	自然大学学長 渡辺弘之
p 6	さいとうさんの“話のタネ”（73）カイノキ	前自然と緑理事長 齊藤侑三
p 7~9	29期自然大学実習感想文「昆陽池実習」	第29期自然大学受講生
p 9	私が見た植物の不思議 （1）ニワトコ編	自然と緑理事 関澤友規子
p 10	活動報告／編集雑記	自然と緑会報編集部

年男・年女の今年にかける思い

Adviser と Instructor

自然と緑会員 上村邦雄

年男として何を書けばいいか迷いましたが、「ライフワーク」を書くことにしました。AI で調べると「**Adviser**」とは、専門的な知識や経験に基づいて助言を行う「助言者」のこと。「**Instructor**」とは、特定の分野において知識や技術を指導する人を指します。とありました。この言葉の通りに出来ているのか、大変不安です。72 歳になった今でもこの 2 つの仕事が出来ている事に感謝しています。一週間の初め、月・火曜日は有給で「地域林政アドバイザー」として、京都府精華町役場に勤務。主な仕事は『精華町森林整備計画』の策定です。今頃はツキノワグマらしき目撃情報の現地確認をしています、いまところツキノワグマではありませんでした。水曜日～日曜日は無給で「Bible instructor.」をしています。一つだけ聖句を記して筆を置きます。

神は言った。「私たちに似た者として人を造ろう。そして人に、海の魚、空を飛ぶ生き物、家畜、地面を動くあらゆる生き物を治めさせ、地球を世話させよう。」
—創世記 1 章 26 節

72 歳を前に思う事！

自然と緑 河川探訪自然観察会スタッフ 小島 マサ子

身近な武庫川をきっかけに河川探訪のスタッフに関わらせて頂いています。最近私の周りでは、「そろそろ片づけようかな？不安な事は整理して減らそうかな？」こんな声が聴こえてきます。

しかし今年の私は『維持』。現状維持、健康維持、期待を少しはするが大きな期待はしない。聞いた事あるけど、まだ観た事ない。そんなものにも出会いたい。

先日、オオサンショウウオについてお話を聞く機会がありました。世界最大級の両生類として知られ、生涯水の中で暮らし夜行性の為人の目につくことは稀だと聞きました。観る事が出来るなら是非・河川探訪に関りながら目を凝らしてみようと思っています。(期待は大きいかな？)



終わりに感想を聞く事も



鴨川にオオサンショウウオは？

年女に思う事？

自然と緑理事 関澤 友規子

マサ子さんと同じく「鴨川探訪」、また「地学的むかし散歩」のスタッフの関澤です。自然大学 9 期の私は前理事長の齊藤さんの班でした。その為か？お陰様で森林インストラクターになって（同班は私を含む 3 人合格）以来、観察会等で勉強の日々です。そこで知った植物と虫の関係や、「地学的…」等での新しい発見を楽しむ毎日で、年など忘れて過ごしております（汗）自然は知れば知る程、その奥に新たな「？」や「！」がありますね。そんなのを書いてのブログや FB の毎日更新も含め、自然と緑のお陰での今、と感謝しております。鴨川探訪も 3 月の源流ツアー等が、地学的むかし散歩も色々な企画が予定されています。皆さま是非一緒に楽しく歩きましょう。



武庫川探訪自然観察会第6回



地学的むかし散歩第12回

自然と緑 正会員の皆様へお知らせ

昨今の事務所経費や事務所家賃等の値上げにより、経費面で事務所の運営が行き詰まっております。そのようなことから、今年6月の総会において会費の値上げを申請し受理されました。

正会員の皆様には大変心苦しいのですが、次の通り 2026 年 4 月より会費の値上げを行いますのでご了承を宜しく御願い申し上げます。

- ・正会員の年会費 5,000 円 ⇒ 6,000 円
- ・賛助会員、家族会員は変更ありません。

NPO 法人 自然と緑 事務局

賛助会員の特典

2025 年度賛助会員(個人)募集の結果 自然と緑 事務局長 瀧原 勇

自然と緑の設立時から、各種団体を対象に賛助会員*を募集してきましたが、このたび、自然と緑の財政逼迫の折から個人の「賛助会員」を募集したところ、下記に示す 26 名の応募がありました。心から感謝を申し上げます。応募して頂いた賛助会費は、自然と緑の事業実施 に有効に活用させていただきます。

自然と緑の理事会では、賛助会員になって頂いた方に対し、その特典を検討してまいりましたが、「自然大学の室内講義について無料受講」が出来ることを確定いたしました。(2025 年度については 2026 年3月31 日まで有効。来年度以降は入会日から翌年 3 月 31 日まで有効) 受講は希望する講義の一週間前までに事務所に「受講申し込み」を行い、受講日には「賛助会員証」を持参し、自然大学事務局に提出して頂くことになります。

来年度以降も「賛助会員」の募集は行う予定になっていますので、今後とも支援を宜しくお願い致します。

*2025 年度に賛助会員(個人)になって頂いた方(敬称略)

宮本智志、米澤淳子、臼田篤子、角田 泉、山下明美、大東 弘、高尾恭子、竹村佳子、森 常緑、山口治、江尻忠雄、竹熊房代、中野佳則、瀧原 勇、伊藤孝美、中山久子、上田 豪、高田七重、関澤友規子、竹内一郎、飛澤好範、小島和江、神崎トモ子(合同会社 Feels)、他匿名3名

【寄付等の御礼】

いつもありがとうございます

<切手、ハガキ、現金など>

11/16 寄付 神谷 憲子 様
切手 沢口 許子 様
12/11 寄付 吉崎 真樹子 様

ご寄付は下記までお願いします

ゆうちょ銀行口座名：
特定非営利活動法人 自然と緑

口座記号： 00900-7

口座番号： 150942

振込用紙の通信欄に「寄付」と明記願います。



渡辺弘之の未解決事件簿（28） 渡辺家では節分の豆まきをしない？

自然大学学長 渡辺 弘之

節分の豆まき

春の節分の夜にはどこのお宅でも、子供たちは玄関を開けて大声で「鬼は外、福は内」と叫んで、炒った大豆を撒き散らし鬼を追い出した。といっても、こんなことをしたのは、私の子供の頃、大昔のことだ。最近節分の夜でも、どこからもこんな大きな声は聞こえてこない。テレビで有名人を招いての有名社寺の豆まきが放映されるのをみているだけだ。

撒くのも大豆といっても、小袋に入ったものだ。殻付きの落花生も多くなっているが、これも小袋に入っていることが多い。昔は畳の上や地面に落ちた豆も拾って、自分の年の数にもう一つ足したものをまず最初に食べた。我が家でもそんな風習はとっくの昔に消滅した。かわって、孫たちは大きな恵方巻を恵方に向かって、「話しかけるな」といって食べ始める。なぜ話しかけてはいけないのか、理由は知らない。ともかく、これで厄が祓えるようだ。

やいかがし（焼嗅）・ひいらぎいわし（柊鰯）

節分に鬼の侵入を避けるため玄関に飾るのが、ヒイラギの枝先に焼いたイワシの頭を挿した「やいかがし（焼嗅）」とか「ひいらぎいわし（柊鰯）」と呼ばれるものだ。しかし、あの鬼がなぜこんなものが嫌いなのか、なぜ、これで逃げるのかすぐには納得できない。ともかく、あの怖い鬼が焼いたイワシの頭の匂いと、ヒイラギの葉の棘が嫌いという。誰にも好き嫌いがある。食べものでも嫌いなものは嫌いで、理由がないが、こんなことが理由だろうか。この日、スーパーではマイワシと恵方巻が大量に売りだされる。しかし、横に置いてある「ご自由にお持ちください」と書いてあるヒイラギは誰も持って行かなかった。

このヒイラギの分布は関東地方南部以南だから、東北・北海道にはこの風習はなかったはずだ。この地方ではどうやって鬼の侵入を防いだのだろう。桃太郎は鬼退治にイヌ、サル、キジをお供に連れて行く。もう少し役立つ強そうなものがあるように思うのだが、イヌは噛み、サルは引っかき、キジは嘴でつついて桃太郎を助けるという。大阪・住吉大社に残されている江戸時代のこども絵本には桃太郎は住吉浜から鬼退治に向かうが、お供はイワシとヒイラギであったという。鬼はイワシの光で眼がくらみヒイラギの棘に悲鳴を上げ、桃太郎に降参するのである。桃太郎伝説もこちらの方が古いらしい。こんなところでイワシとヒイラギの組み合わせ、そこに桃太郎が登場するのを知ったのだが、これも納得できる話ではない。

トベラ（トビラノキ）

もう一つある。海岸性の樹木で、一般家庭にも公園にもよく植えられているトベラにトビラノキ、トビラという別名があり、これも正月や節分にこの葉を玄関・扉に貼って鬼の侵入を防いだとされる。トベラの分布も太平洋側で岩手県、日本海側で新潟県以西、海岸沿いに沖縄まであり、牧野植物図鑑にも「葉や枝に悪臭があるため節分や除夜にこの枝を扉に挟んで鬼を除ける風習があったので、トビラノキと呼び、それがトベラになった」と書かれている。この枝や葉を焼いたときの匂いはひどく竈の神様三寶荒神が嫌うので「荒神ざらい」とある。

トベラの葉を貼る風習、京都付近には見られない。どこかに残っていないだろうかと気にしていたら愛媛県に古い記事があるのを知り、愛媛の知人に問い合わせたら、新居浜市では鋭い棘のいっばいついたタラノキの長い棒一對を玄関に立てかけることを知った、ヒイラギの棘より鋭いものだ、これなら鬼も逃げるだろう。さらに、今治市では短いタラノキの先にトベラの葉を挟んだものを飾り、道の駅で売っているという。やっとな、トベラにたどりついた。場所によってあっさり消えたり、しぶとく残ったりする。



マイワシと無料のヒイラギ



恵方巻



タラノキとトベラ

鬼とは妖怪の一つ

一般には鬼は頭に2本あるいは1本の角があり、口に牙、指には鋭い爪があり、虎の皮の褌をし、大きな金棒を持っているとのイメージだ。赤鬼・青鬼以外に緑鬼、黄鬼、黒鬼がいるらしい。その鬼は鬼門から、すなわち丑寅の方向、北東から侵入するとされ、京都でも北東に赤山禅院や吉田神社があり、都の護りを固めている。

鬼は天狗、河童とともに、日本三大妖怪とされる。私たちのイメージするもっとも怖い鬼は人を食べるという存在・妖怪で、怨念や嫉妬をもった人間などとされているようだ。地獄で閻魔大王の指示で亡者を責める役目ももっている。しかし、節分の豆まきで追い出す鬼の正体は姿形のない疫病のようだ。

鬼に関する話題はいくらでもある。修験道の役行者の使いであったという前鬼・後鬼という鬼の夫婦の子孫は後に人間となり、現在でも奈良県大峰山の麓、下北山村前鬼に住んでおられる。五鬼助さん一家で、現在も熊野古道の小辺路、高野山から熊野本宮大社への大峰山経路を縦走する行者さんの宿坊を経営されている。丹波・大江山にいた鬼・酒吞童子は身長6m、角は5本、眼が15個もあったとされ、京から美しい姫君を攫って食べていたが、一条天皇の御代、西暦1,000年ころ、源頼光と渡辺綱、坂田金時らによって酒を飲まされた上、退治された。この鬼の首を京まで運ぼうとしたが、丹波と山城の境、老の坂で急に重くなり、それ以上運べず、ここに葬ったとされる。この鬼とは山賊集団のようだ。福知山市に「日本の鬼の交流博物館」がある。

鬼退治でもっとも最も有名お話はイヌ、サル、キジをつれての桃太郎の鬼退治であろう。讃岐の瀬戸内海の女木島には桃太郎に降参した鬼の住処がある。高松近郊には鬼無町があり、信州に鬼無里がある。一寸法師も都へ上り、お姫様のため最後には鬼を退治する。岡山吉備津彦尊の鬼・温羅退治も桃太郎伝説に繋がるようだ。しかし、青森・岩木山の鬼は神とされるし、男鹿半島のなまはげも神の使いのようだ。鬼は神仏の化身でもあり、その実態はきわめて多様なもののようだ。

豆まきをしない渡辺家

つい最近になって渡辺姓の家、渡辺家では節分に鬼退治をしないと聞いた。お宅でもやっていないのかと聞かれたのだ。小さい時から、節分の豆まきをしていた。渡辺家では豆まきをしないことなど知らなかった。豆まきをしないという理由を同姓の渡辺さんに聞いたら、先祖の渡辺綱が鬼を斬ったので、この世にもう鬼はいないのだという。我が家は渡辺姓だが、鬼除けに豆まきをしていたということは、どうも、渡辺綱の子孫ではないらしい。

調べると、源頼光の四天王の一人、渡辺綱は武蔵国で生まれ、源満仲の婿敦の養子となり、摂津渡辺荘に住み、渡辺姓を名乗った。渡辺姓の発祥とされる。大阪・中之島にかかる橋に渡辺橋がある。渡辺家の家紋は丸に三星に一文字であるが、そんな家紋のついた羽織を子供の時みたことはあるが、一枚も受け継いでいない。

渡辺綱の鬼切丸

渡辺綱は京都一条戻り橋で若い女性に化けた鬼に助けを求められ馬に載せ五条まで行く途中、空中に攫われる。もっていた名刀鬚切（のちの鬼切丸）で鬼の腕を斬りとったとされ、綱自身は北野天満宮に落ちたとされる。その名刀は鬼切丸として現在も北野天満宮宝物殿に保存されている。いつも多くの方が、この名刀の前に立っておられる。実は片腕を切り落とされた鬼はその後、綱の義母に化け、唐櫃の中にある腕を取り返しに来て、腕をもって屋根を突き破り逃げたとされる。渡辺綱は鬼の腕を斬っただけで、鬼は斬られた腕を取り返しに来たくらいだから、殺してはいない、退治はしていないということだ。それでもこれで懲りたようで、その後、出沒はしていないらしい。鬼は生きていくということだ。綱に退治されこの世に鬼はいないから、節分の鬼退治、「鬼は外」はいらないという理由がなくなる。

節分の鬼除けはあの鬼でなくまちがいなく姿かたちなくやってくる疫病であろう。古来、天然痘、コレラ、インフルエンザ、最近ではコロナなど、怖い疫病は人々を何度も襲っている。京都の祇園祭も起源は疫病封じであったし、神社の春の春花祭も疫病退散祈願である。鬼・疫病侵入防止にはうがい、手洗い、マスク、ワクチン、そして豆まきだ。



**渡辺さんからは
鬼が逃げる??**

さいとうさんの“話のタネ” (73) カイノキ

前自然と緑理事長 齊藤 侑三

カイノキ(楷ノ木)は、直角に枝分かれし小葉がきれいに揃っていることから、この枝葉に似た書体を「楷書」と名付けたといわれる。「文字の点や画を崩さずに正確に書く書体」「強くまっすぐ」「手本」の意味があり、中国では模範の木とされている。時系列で見る。

2000年5月、岡山署に出張し、山陽自動車道の瀬戸PAで休息した時に、カイノキが植えてあった。写真撮影していると売店の叔母さんがポットに入ったカイノキの苗をくれた。売店は瀬戸PAの町内にある閑谷(しずたに)学校を模した形になっている。閑谷学校の入り口石段の左右に一对のカイノキがあって、秋は深紅色、黄色がかった淡紅色になり美しい。岡山署の植物好きの人に「欲しい」と言われ、出張で来たところなのであげた。これが、カイノキを見た最初だった。



亀戸天神のカイノキ

カイノキは孔子が好んだといわれ、孔子の墓所「孔林」に弟子の子貢が植えたとされ「学問の聖木」とされた。1915年に孔林で採られた種子を東京都目黒区の林業試験場に植えられた。「孔子ゆかりの木」「儒学の象徴」「学問の木」として日本にひろまった。

2003年11月瀬戸PAに行くとき実がなっていた。珍しい彩りで初めて見る実だ。葉は黄葉と紅葉に染まっていた。

2008年6月東京の亀戸天神にいくと菅原道真を祀っており、カイノキが植えてあった。

2015年12月八尾市の高安山山麓の案内をしていると、愛宕塚古墳の南にある畑の畦にカイノキの実がなっていた。5~6mmの赤い球形の果実を房状につけ、熟すと灰青色になる。地元八尾市にもあったと感激した。



八尾のカイノキの実

2019年10月に大阪府枚方市の王仁(わに)塚にいった。4~5世紀に百済から日本に漢字や儒教を伝えたといわれる王仁士の墓と伝えられる。その門前にある「論語碑」に植えてあり、実がなっていた。葉はまだ紅葉していなかった。

2022年3月大阪府藤井寺市に菅原道真を祭神とした道明寺天満宮の庭に大木があった。

2024年5月、大阪大学のマチカネワニを見に行ったら、校内に植えてあった。このように、学問に縁(ゆかり)のあるところにはカイノキが植栽されている。

カイノキは『ウルシ科カイノキ属の落葉高木。別名カイジュ、ランシンボク、トネリバハゼノキ、ナンバンハゼ、クシノキ(孔子の木)、オウレンボク。中国名は、黄連木。別名の「ランシンボク=爛心木・乱芯木」は成木になると幹が腐って空洞になるので、芯が腐乱することからと言われている。樹齢は700年、樹高は30m、直径は1mになる。雌雄異株だが開花までは判別できない、雄花は淡黄色、雌花は紅色。葉は小葉が5~9対の羽状複葉。若葉に芳香があり、茶の代用にされるほか、野菜としても食用にされる。分布は東アジアの温暖な地域に自生する。材質は堅く、香りも高く、心材は鮮黄色で木目が美しい。優良な家具材であり、船材、杖、碁盤などに用いられる。中国では科举試験の合格者に楷で作った笏(コツ)を与えて名誉を讃え、その杖は「楷杖」として暴を戒めるために用いたと伝えられている。材は碁盤、杖、槍の柄とするとウイキペディアにあった。



カイノキの紅葉



カイノキの黄葉



瀬戸PAのカイノキ



王仁塚のカイノキ



道明寺天満宮のカイノキ

《 1 班 》

○野鳥はどこ？という感じで、池の周囲に植えられた落羽松のニョキニョキ出ている気根ばかりが目につきました。今回も昆陽池正面から見渡したところ、日本列島を模した「野鳥の島」の木（糞害で枯れた）に黒いカワウ。手前に少数のカモ程度しか私には見えなかったので事前に配布された bird list の 40 もの鳥を見つけれられるのか心配でした。でも、先導される佐々木先生や野鳥観察の経験がある参加者の方々がいち早く野鳥を見つけて、望遠鏡や双眼鏡で見せてくださったおかげで、たくさんの鳥を見ることができました。特に「ミコアイサ」は名前も姿も初めて、白黒の縫いぐるみのようでした。カモも野鳥観察橋で見るとカルガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ。目の前に飛来着水したスマートなおナガガモ。光沢のあるグレーの体に黒の翼、ピンと伸びた尾羽。恰好良すぎます。池の周囲からふるさと小径ではジョウビタキ、シロハラ、カワラヒワ、メジロなど小さな鳥が素早くあちこちへ移動。双眼鏡をお借りしてやっと判別することができました。

今回の一番はコウノトリが見られたこと。離れてはいましたが、ずっと同じポーズでいてくれたので、写真も撮ることができてラッキーでした。午後の室内講義では、鳥の進化から分類、体の仕組み、生態と色々な例を挙げながら説明されたのですが、情報量の多さと午前の疲れからか時々意識が飛んでいました。今の鳥類の姿から祖先は爬虫類の獣脚類（ティラノサウルスとか）と言われても納得しがたいのですが、進化で枝分かれしたミクロラプトルは名前のとおり全長約 50cm、体重 2～3kg の小さな恐竜で、腕の翼だけでなく後肢にも翼がついて肢の鉤爪で木に登り滑空していたと考えられており、鳥類に近づきつつある……と思いました。体のしくみの説明から、「鳥は臓器を重心付近に集めバランスを取りやすくし、翼を動かすために骨格を大胆に変化させ、骨癒合や関節をなくすことで軽量化を図り、採餌しても短時間で消化する。肺が酸素を効率的に取り込む気嚢方式を採用し、高高度での飛翔を可能にする。最も重要な翼は初列風切や次列風切で推進力や揚力を得る仕組みができていて、尾羽は方向舵やブレーキの役目を持っている」等々。空を「飛ぶ」という強い意志をもって進化したのでは！と思いました。

途中、ハシビロガモの仲間が集まり、ぐるぐる円を描いているのは、渦を作って浮き上がってきたプランクトンを食べる為とのお話があり、垂仁天皇陵の濠でかなりのカモが何度も円を描いて泳いでいるのが不思議



昆陽池で集合写真



水鳥観察風景



水鳥観察風景

だったので、答を聞けて良かったです。野外実習や鳥全般のお話、識別のポイント等盛沢山でしたが、野鳥観察って楽しいかも！と思うようになりました。実践するには双眼鏡は必須。写真図鑑も大切。でも私には、鳥の知識や観察経験豊富な友達が一番必要かもしれません。

《3班》

○鳥の観察会は初めてでしたので、近くの平野川で何日か双眼鏡を持ってカモを見に行きました。カイツブリ、コガモ、ヒドリガモを観察しました。昆陽池では、オナガガモをはじめ、沢山の種類のカモを身近に見ることができ、とても楽しかったです。林の中での鳥の観察は目で見ていても双眼鏡で追うのは難しかった中で、モズだけはしっかり見ることができました。モズがあればほど色鮮やかだったのを初めて知りました。コウノトリに出会えたのも良かったです。佐々木先生の講義は専門的な内容で、なかなか難しいものでした。しかし、恐竜から鳥への進化を現した図は興味深いもので、ここまで解ってきたのかと、驚きました。バードウォッチング初心者の私ですが、先生が書いておられるように、一生遊べる趣味として続けて行きたいです。まず、川崎さんお薦めの図鑑を買うことにします。楽しい1日をありがとうございました。



カワセミ

○午前中のバードウォッチングで、コウノトリや、目の前でコゲラが木を登って行く姿や、水鳥が泳いでいる姿を見ることができ、その姿の美しさに感動しました。午後の講義での鳥の進化の新しい話は、どんどん研究が進んで、知らない事が沢山ありました。また、鳥が飛ぶために、呼吸や消化等、体の仕組みが良く出来ていると感心しました。今回、バードウォッチングだけでなく、鳥についての講義があって、とても良かったです。佐々木先生の知識の広さにも、鳥の地鳴きを一瞬聴いただけで鳥がわかるのにも、本当に驚きました。ありがとうございました。

○鳥は姿かたちが美しく、色鮮やかなものもあり、鳴き声に魅せられ、その愛らしいしぐさにも惹かれます。しかし、佐々木先生はまず鳥を観察するにあたっては、愛でるだけでなく、その鳥が食する物をはじめ、くらしや生態にまでに目をやるのが大切であると観察会の冒頭にお話しされていたと思います。「鳥はどうしてそのような姿かたちをしているのか、そこにはちゃんと生き、生活していくための理由がある。それを知るためには一つには「食べるもの」に着目する必要がある。カラヒワやマヒワはアキニレの種子をよく食べる」という話を先生から聞きました。しかし、私はアキニレの種子がどんなものなのかを知らないし、なぜヒワたちがそれを好むかもまだ知りません。まずは野鳥図鑑（鳥の研究は日進月歩なので、図鑑は最新のものでなければならない）を購入し、自宅裏の池を根城にして鳥から観察することを始めたいと今は思っています。



コウノトリ

○佐々木先生のフィールド実習において、以下の点に驚きがありました。

①日本の地域・地域において、鳥のさえずりに違いがあると言う事。思わず、鳥の世界にも方言があるのかと連想してしまいました。②さえずりにおいても、繁殖期に他の鳥の真似をする点。特に、モズはいろいろな鳥のさえずりを、自分のさえずりの中に混ぜ込もうとする点により、経験豊富さと長生きをアピールし、メスの気を引こうとしている点には驚きました。③木の種類によっても集まる鳥に違いがある事は、参考になりました。従来私は、野鳥にあまり興味がなかったのですが、今回の実習を通して野鳥にも視野がひろがりました。リーダーの勧めもあり、野鳥図鑑を早速購入しました。

【佐々木先生の昆陽池感想文へのコメント】

佐々木泰彦

自然大学第 29 期の受講生の皆さん方には一年間お疲れさまでした。私の担当した野鳥観察と解説への感想文をいただき有難うございます。

観察できた鳥種は満足いくものではありませんでしたがコウノトリを観られたのは良かったと思っています。写真を撮られた方も多かったようでしたね。その写真を拡大して足輪を見てください。左右で 4 個装着されていたはずですが、その並びで個体識別ができますので調べて見てください。いつどこで生まれて親がどれかなどの情報が手に入るかもしれません。

午後からのお話は毎年新知見が入ってきますので内容を更新していて若干難しかったかもしれません。しかし自然観察は個人の興味ごとに色々な楽しみ方ができますので、肩肘張らずにこれからも鳥=恐竜ウォッチングを続けられると幸いです。



私が見た植物の不思議 (1) ニワトコ編

自然と緑理事 関澤 友規子

自然大学 9 期の関澤です。それまでは松と桜位しか解らなかった私ですが、以来 20 年余。お陰で色々な発見が楽しい日々ですが、中でも植物の不思議には驚くばかり。そんな私の「！」の話をする事になりました。どうぞ宜しくお願いいたします。初回は我が家のニワトコの話です。

2007 年 1 月に冬芽を学ぶ観察会でニワトコの小枝を 1 本頂きました。何とも可愛い顔ですね①

この小枝を水に挿していたら②「発根」した 5 月 11 日③ それを鉢植えにした 7 月 13 日④ 花も咲いて数年経過し、2016 年に鉢ごと庭の奥に置いたのが間違いの元。気づくと鉢から根を出して今や 2 階のベランダを越える大木に⑤ 小枝 1 本からここまでとは。樹木医だった故 F 氏の「発根する」との声からのですが、植物の細胞って凄い…山中伸弥教授の iPS 細胞みたいな。2024 年暮れには壁塗り工事で組まれた「足場」で今や！と幹や枝を伐りまくったのに、現在また大木に戻ってしまいました。ニワトコはガマズミ科の落葉樹。裏のお家にまた迷惑が…と悩む私です。



① 2007 年 1 月 15 日



② 同 2 月 20 日



③ 同 5 月 11 日



④ 同 7 月 13 日



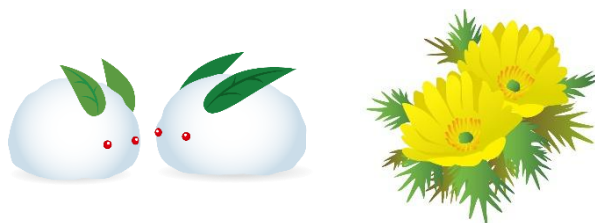
⑤ 2025 年 9 月 16 日



2024 年 3 月 22 日の花

自然と緑の活動報告 2025 年 10 月～2025 年 12 月

- ◇10/ 9(木) 10月期理事会 19人
- ◇10/12(日)～13 (月・祝) 第 30 期自然大学野外実習 .. 24 人
「芦生研究林」
- ◇10/18(土) 自然と緑の自然観察会「せんなん里海公園」.. 18人
- ◇10/19(日) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森..... 28人
「定例間伐」「炭焼活動」
- ◇10/21(火) 大阪経済法科大学 里山整備..... 8人
- ◇10/23(木) 地学的むかし散歩「第15回」..... 23人
- ◇10/25(日) ステップアップ講座野外実習..... 17人
「上賀茂神社と下鴨神社」
- ◇10/26(日) 第37回水都おおさか森林の市2025..... 18人
- ◇10/30(日) 森林管理局ギャラリー展示 2人
- ◇11/ 1(金) 斑鳩町産業まつり..... 15人
- ◇11/ 8(土) 斑鳩町 里山整備「測量と調査」..... 8人
- ◇11/ 9(日) 第30期自然大学野外実習「馬ヶ瀬山」..... 28人
- ◇11/13(木) 11月期理事会 15人
- ◇11/16(日) ステップアップ講座野外実習..... 30人
「大阪経済法科大学（つる取り、ツル籠作り他）」
- ◇11/18(火) 大阪経済法科大学 里山整備..... 6人
- ◇11/19(水) 河川探訪自然観察会「鴨川第6回」..... 23人
- ◇11/22(土) 斑鳩町 里山整備 8人
- ◇11/23(日) 近江馬ヶ瀬山ふれあいの森..... 30人
「定例間伐」「炭焼活動」
- ◇11/30(日) 自然と緑の自然観察会 27人
「浄瑠璃寺・岩船寺 石仏コース」
- ◇12/ 3(水) クラフト活動 8人
「ドライフラワー作りと正月飾り」
- ◇12/ 6(土) 斑鳩町 里山整備 12人



「NPO 法人自然と緑」ホームページ



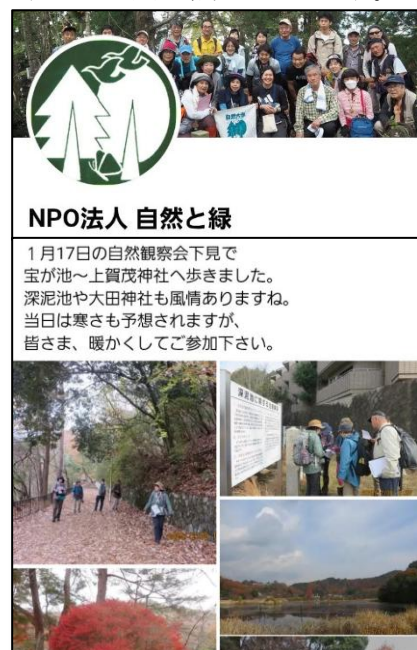
——会員募集のお知らせ——

「NPO 法人自然と緑」では随時、会員を募集しております。

ご友人、ご親戚を是非お誘い下さい。ご入会・更新は上記 QR コードをご利用下さい。

——ホームページをご活用下さい——

上記 QR コードをスマホで読み取ると「NPO 法人自然と緑」のホームページがご覧いただけます。最新の活動の様子も写真で紹介しています。



「NPO 法人自然と緑」ホームページより

★編集雑記

一月七日は五節句の一つ「人日の節句」です。別名「七草の節句」と呼ばれるように、七草粥を食べて季節の変わり目に、自然の精気を得て邪気を払い無事に過ごし、無病息災を願う日とされています。又、生まれた年と同じ十二支を迎える年の人たちを「年男・年女」と呼び、多くの地域では縁起の良いとされ、節分に豆まきをする風習の神社もあるそうです。更に歳神様のご加護を多く受け、新しいことを始めたり、願い事をするのに良い年とされています。

二〇二六年は、六十年ぶりに十千の丙と十二支の午が重なり、丙午（ひのえうま）の年です。どちらも「火」の性質を持ち、情熱と行動力のある強力なエネルギー溢れる年だそうです。ところが、江戸時代の八百屋お七放火事件後「丙午生れの女性は気性が激しく、夫を早死にさせる。」と迷信が広まったとされています。前回の丙午は一九六六年で、出生数減が話題になりました。これらは「男社会」のことと考え方も変わります。現在にはあらゆるところで「女社会」が大きく、前述の「情熱と行動力のある強力なエネルギー溢れる女性」が悪しき風習を撲滅しましょう。
(イチロー)